

**枯渇後、IPv6とIPv4は共存できる環境が整っているか**

**株式会社ビーコンエヌシー  
データセンター事業部  
國武 功一**

# 自己紹介

Twitter : @kunitake

IPv6の活動 : USAGI Project, 他社技術支援、IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース、各種雑誌記事など

最近の活動 : 仮想化関連、IPv6への対応など

# ホスティング事業者としての取り組み

- 2007年3月よりデータセンター事業開始
  - 当初よりIPv6サービスに対応
    - インターネット接続サービス
    - ホスティングサービス
- 現状
  - 2010年より<ハイブリッドホスティング>を主軸に展開
    - 仮想マシンと物理サーバのいいとこ取り

# IPv6、自社への展開

- Webサーバ
- SMTP
- 社内システム(チケット管理システムなど)

# IPv6提供サービス

- CDN(他者様サービスとの組み合わせ)
- インターネット接続サービス
- ファイアウォール
- ロードバランサー
- WAF(Web Application Firewall・フルスペック)
- サーバホスティング(Linux, Windows)
  - 仮想、物理
- 各種運用サービス

# やってみて？

- 以前に比べかなり製品がそろってきた
  - 当初は、対応できない個所があったり、\*BSDをFirewallとして利用していたりと、かなり手作り感あふれる構成だった...
  - IPv4でやれて、IPv6でできない機能を持つ製品もまだ残っている
- いまだに実装が変わることがある

# そこまで苦勞する意味ってあるの？

- 残念ながら、IPv4/IPv6の話題はリスク
  - エンジニアとして管理できるリスクであれば、きちんとリスク管理しておく必要があると考えている。
  - お客様に聞かれて初めて調べるような話題ではない
- 結構地雷は踏みました
  - 199x年のころの実装は本当にひどく、TCPのセッションが張れた瞬間にOSが固まるようなバグも...
  - 自身の環境で問題ない？